給者也、三月十四日辛卯、別記、

立后○多子事

〔台記別記〕久安六年四月廿日丙寅、昨暮無温氣、奉書攝政殿、○藤原忠通問御經營、又申養女○藤原伊通女呈子入內之間若有可參、可承其月日之狀、報狀曰、恩之狀喜悅承了、忝々無極、老心惘然、臨期可申歟、今夜入內、世間以爲余必愁憤、然而中心無所愁憤、所然者法皇○鳥羽上皇○崇德二代、正妃之外無納代女、堀川院以往、所迎不唯一人、加之生子蒙寵、不依他女有無也、此狀先日奏法皇已了、而人慣近代、推疑結憤、甚無其理○略中　廿一日丁卯、今夜執政養女自東三條入內、今日自伊通卿家參東三條云々、所々殿上侍臣前驅、執政及大納言三人、中納言三人、參議三人連車云々、○略中　六月廿二日丁卯、今日有立后事、○略中　未刻朝服、此間攝政殿下參入、余○長賴著右仗、于時皇居、四條東洞院、令敷膝突、使藏人辨範家申殿曰、一昨令申可參入之由、而昨日右大臣行召仰事之由、只今承之、若愚臣不可行歟、隨處分、欲罷退、報命曰、聞依疾坐宇治之由、仰右大臣而已、被參入早可催行、去十日當自宇治、報命之趣頗以爲奇、即召大外記師業朝臣、未參、召少外記中原師直、問諸司具否、申未具之狀、仰可加催之由、良久範宗來傳勅曰、以女御從三位藤原朝臣爲皇后、任例作宣命、余問其名、答曰呈子、即召大內記長光、未參、良久參入、仰曰、以女御從三位藤原朝臣呈子爲皇后、作進宣命、須臾持參宣命草、使範宗奏之、移刻返給、賜大內記、令清書、○略下

〔愚管抄 六〕九條の右大臣○實兼は、○略中嫡子の良通大納言大將、○略中その妹に女子のまた同じく最愛なるおはしけり、今の宣秋門院○任子なり、それを昔の上東門院の例にかなひ、當今○後鳥羽御元服ちかきにあり、八にならせ給、十一にて御元服あらんずらんに、是を入內立后せんと思ふ心ふかけれど、法皇○後白河も御出家の後なれど、丹後○高階榮子が腹に女王おはす、賴朝も女子あんなり、思さまにもかなはじと思て、又この本意とぐまじくば、たゞ出家をこの中陰のはてにせてんと思て、二心なく祈請せさせられけるに、又あらたにとげんずる告の有ければ、思ひのぞめて善政とお